

*今年度の取組と自己評価

(1) 教育活動への取組と自己評価

令和6年度は、インフルエンザやコロナによる学級閉鎖や大きな事故等もなく、教育活動は計画通り実施することができました。本校で行なった今年度の「特色ある教育活動」は、

- ・ 伝統文化理解～英語寄席のワークショップと本公演（文化庁予算）
- ・ 国際理解教育～留学生から学ぶ世界の文化（都立大との連携）
- ・ 子供を笑顔にするプロジェクト～高尾山の歴史と精進料理
- ・ セーフティ教室～LINE 講演会、E ネット教室
- ・ 二大学校行事～体育大会、合唱コンクール など

また、昨年度に引き続き、小中一貫教育として、各学年の合唱コンクール最優秀クラスの合唱を小学6年生に披露し、中学校生活をより身近に感じてもらったことや、先生方が8つの分科会に分かれて、協議、研究を深めたことも成果がありました。今後も小中一貫教育を推進していきます。

(2) 重点目標への取組と自己評価（成果と課題）△＝教育活動の目標と方策 ⇒*成果と課題

1) 学力の向上に関すること～「確かな学力」の定着と生きる力を育む教育を推進します。

【学習指導の充実】

△「わかる喜び」「できた達成感」を体得しながら、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせます。

△習熟度別指導や土曜授業、放課後の学習会等を活かし、個に応じた支援体制の充実を図ります。

⇒*「はちおうじっ子ミニマム」や八王子市学力定着度調査の結果活用は十分ではなく、来年度、活用の仕方について課題が残りました。

*「GIGA スクール構想」での端末の持ち帰りは毎日行い、一部の教科ではミライシードや宿題の提出等でクラスルームが活用され、家庭学習の充実が図れました。今後、さらなる活用を推進していきます。

*学校運営協議会の協力のもと、長期休業中や定期考査前の放課後の学習教室の参加者の増加があり、定着もしています。今後も個別最適化された一人ひとりに応じた支援体制を継続していきます。

【特別支援教育の充実】

△「八王子版 特別支援教室運営マニュアル」を踏まえ、特別支援校内委員会、特別支援教室専門員、巡回心理士との連携を密に図り、個に応じた多様な支援体制の確立と合理的配慮のもとで、指導の工夫と充実を図ります。

⇒*委員会での情報交換や行動記録が共有され「学校サポーター」や「都スクール・カウンセラー」等の活用により、学校には来られるが教室に入れない生徒への対応もできました。「つながるプラン」の実践が進められ、成果を上げています。

【キャリア教育の充実】

△変化の激しい社会に生きるために、自己肯定感を高めさせ、自己の「生き方」について考え、主体的に関わる力を身に付けさせます。

⇒*家庭との連携を図り、「はちおうじっ子キャリアパスポート」を活用し、今後も予測不可能な社会の中で、柔軟に対応し、力強く未来を切り拓いていく「生きる力」を育成していきます。

【小中一貫教育の推進】

△別所中学校グループ（秋葉台小・別所小・別所中）の9年間で育てたい児童・生徒像「変化の激しい社会の課題解決に向けて主体的・創造的に立ち向かう力」の育成を推進していきます。

⇒*小学校のサマースクールでの学習補助、部活動体験、合唱コンクールの合唱披露等、中学生が活躍している場面を小学生が見ることによってよい連携が行われた。今後も推進していきます。

*小中での協議会（学力向上、総合的な学習の時間、生活指導、不登校、ICT、特別支援、学校保健）での研修や意見交換を今後も継続し、小中連携を推進していきます。

*青少年対策委員会主催の「地域清掃」「別所子ども祭り」「スポーツ大会」等に、ボランティアとして生徒を積極的に参加させ、地域の方々や小学生とのふれあいを通して郷土愛や地域の一員としての自覚を高めさせました。更に、積極的に参加させていきます。

2) 健全育成に関すること～自他を大切にし、「豊かな心」を育みます。

【人権教育の推進】

△自他の人格を尊重する精神と規範意識の醸成を図ります。

△いじめや差別、偏見（LGBTQ 等への配慮）は基本的人権の侵害であるとの確固たる認識に立ち、根絶を図ります。

⇒＊「いじめはどの学校にもある」との認識をもち、毎週行う「いじめ対策会議」（月に一度は全教職員による「いじめ対策総合会議」）にて生徒の状況や今後の対応策の検討がしっかり行えました。スクール・カウンセラー（SC）、スクールソーシャルワーカー（SSW）、「心の教室」等の相談活動を活用し、教育相談の工夫、アンケート調査の活用を図り、未然防止・早期発見・早期対応等、組織的な対応に取り組みました。しかし、いじめは発生しており、さらに、心の教育等の未然防止の充実が課題です。

【道徳教育の推進】

△全教育活動を通じて道徳教育を充実させ、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育成します。

△道徳の時間の工夫改善や評価についての研究を行い、特別な教科（道徳科）の充実に向けた取り組みを推進します。

⇒＊学年の教員がローテーションで授業を行い、多面的・多角的に考え、議論し合う道徳の授業を実践してきました。今後も教師が道徳的な価値についてのねらいを吟味して、道徳的な判断力、心情、実勢意欲と態度を身に付けさせていきます。

【生活指導の充実】

△あ（挨拶をきちんとする）、じ（時間を守る）、み（身だしなみを整える）、こ（言葉づかいを丁寧にする）、し（姿勢を整える）、がしっかりできる生徒を育てます。

△「笑顔あふれる明日も行きたくなる学校」を目指し、学校不適応に陥った生徒へは SC や SSW の活用、家庭・関係諸機関との連携を密に図り対応します。

⇒＊「つながるプラン」の具現化として、SC や SSW 等関係諸機関との連携し、個に応じた適切な対応に努めます。しかし、「QU」の活用が今後の課題であり、「笑顔あふれる明日も行きたくなる学校」に近づくように取り組んでいきます。

3) 安全及び健康づくりに関すること～安心・安全な学校で「健やかな体」育みます。

【安全教育の充実】

△多様な災害を想定した避難訓練を実施し、防災、減災、危機回避能力を身に付けさせると共に、地域の一員として実践できる力を育成します。

⇒＊避難訓練は火災や地震、不審者の侵入、J アラート発令時等、多様な想定での避難訓練を実施し、生徒だけでなく教職員の訓練としても充実したものになりました。

【健康教育の充実】

△学校保健計画等に基づき、適切な生活習慣、望ましい食習慣の確立に、家庭と連携を図りながら推進します。

⇒＊家庭の協力のもと、健康の保持増進と体力向上に努めた結果、インフルエンザやコロナ等の学級閉鎖はありませんでした。

＊だれもが運動・スポーツに親しみながら出来る「スポーツ・レクリエーション部」の充実を工夫しながら取り組みました。

【環境美化活動の充実】

△ESD を推進し、日常の清掃活動を重視し、また環境美化デー（週間）を設定し、安全で清潔な学習環境の維持に努めます。

⇒＊生徒会活動や青少年対策育成委員会の地域美化活動に積極的に参加し、ボランティア・マインドを醸成させていました。

4) 特色ある学校づくりに関すること～日本の伝統文化のよさを理解し、国際理解教育を推進します。

【特色ある教育活動の充実】

△ESD（持続可能な開発のための教育）、SDGs（持続可能な開発目標～17）の取り組みを推進し、「持続可能な社会の創り手」として一人ひとりが身近でできる具体的な行動を行わせ、「地域の中でよりよく生きる」意欲を高めさせる。さらに、社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心などボランティア・マインドの醸成と、「誰一人取り残さない」を合言葉として、共生社会の一員としての自覚と行動力を培います。

⇒＊生徒会朝礼や生徒会新聞で「SDGs」の啓発を行い、意識を高めることができました。さらに地域にも発信をしていきたい。

5) 家庭・地域に関すること～保護者の願い、地域の思いの信託に応え、開かれた学校を目指します。

【保護者・地域・関係諸機関との連携】

△各種の教育活動、学校行事等に外部人材を積極的に活用します。

△学校ホームページや各種のたよりによる情報発信を積極的に行います。

△「地域とともにある学校」として、生徒の豊かな成長を、保護者と地域とが知恵を出し合い、地域運営学校（コミュニティ・スクール）として特色ある学校づくりを目指します。

⇒＊学運協の協力のもと、長期休業中や放課後の「学習教室」の運営が円滑に行われました。また、毎週末に発行される各学年だよりで生徒の活躍している情報の発信等が行われました。しかし、学校

ホームページの更新が滞ったことは課題です。今後も地域運営学校として、地域に根付いた誇れる学校をめざします。

6) 教職員に関すること～教育公務員（プロ）としての自覚と責任ある職務を遂行します。

【研修の充実】

△若手、中堅、ベテランの教職員が共に学び合う校内 OJT を推進します。

△小中一貫教育の推進を図るため、出前授業の実施や小中合同の研修会、授業研究等を実施し、義務教育 9 年間を見通した教育活動への取り組みを推進します。

⇒*授業力や学級経営の向上のため、OJT を積極的に推進しました。また、小中一貫教育推進プロジェクトチームでは、「義務教育終了段階において育成すべき生徒」の実現を目指して取り組みました。

【服務の厳正】

△スクールコンプライアンスの遵守を徹底させ、生徒、保護者、地域からの信頼を得ます。

⇒*個人情報の管理の徹底を図るとともに服務研修を定期的に行い、常に教育公務員としての自覚と誇りを高めさせました。

(3) 次年度以降の課題と対応策（▲＝教育活動の目標と方策、*＝具体的な方策）

1) 学力の向上に関すること

▲「わかる喜び」「できた達成感」を体得しながら、基礎的・基本的な知識や技能を身に付けさせます。

▲「八王子版 GIGA スクール構想」でのドリル型の学習コンテンツを取り入れ、端末を用いた家庭学習の充実を図り、個別最適な学び及び協働的な学びの実践を行います。

*読書活動の励行（朝読書、調べるコンクールへの応募）*放課後学習教室の充実*ベーシックドリル等の活用*はちおうじっ子ミニマムの確実な定着*家庭での PC 端末使用による反復学習 など

▲別所中学校グループ（秋葉台小・別所小・別所中）の 9 年間で育てたい児童・生徒像「変化の激しい社会の課題解決に向けて主体的・創造的に立ち向かう力」の育成を推進していきます。

*学力向上部会（国語、算数数学、英語）での到達目標の検討*ICT 部会での到達目標の検討*学習支援ボランティア*授業・部活動体験*合唱コンクールリハーサルの披露 など

2) 健全育成に関すること

▲別所中学校グループで「変化の激しい社会の課題解決に向けて主体的・創造的に立ち向かう力」の育成を義務教育 9 年間で育みます。

*地域にある人材や教材等を活用した授業実践*別所生活指導スタンダードの作成 など

▲「安心して学べる別所中」のスローガンのもと、生活指導の充実を図ります。

*あ（挨拶をきちんとする）*じ（時間を守る）*み（身だしなみを整える）*こ（言葉づかいを丁寧に）*し（姿勢を整える）、がしっかりできる生徒の育成。

▲「いじめや暴力のない一人一人にとって心休まり、居心地のよい学校」を目指します。

「いじめ対策会議、総合委員会」での情報共有「QU」の活用*「子ども見守りシート」や SC、SSW の活用*いじめ対応の研修会の実施 など

3) 安全及び健康づくりに関すること

▲多様な災害を想定した避難訓練を実施し、防災、減災、危機回避能力を身に付けるとともに、地域の一員として実践できる力を育成します。

*避難訓練、不審者対応訓練の実施*セーフティ教室（SNS 等）*食育の推進*体力向上のための一校一取組*「八王子市いのちの大切さを共に考える（週間）」の取組 など

▲ESD の推進、安全で清潔な学習環境の整備を行います。

*美化活動*地域清掃 など

4) 特色ある学校づくりに関すること

▲ESD（持続可能な開発のための教育）、SDGs（持続可能な開発目標～17）の取り組みを推進し、「持続可能な社会の創り手」の育成を目指すと共に、社会に貢献しようとする意欲や他者を思いやる心などボランティア・マインドの醸成と、「誰一人取り残さない」を合言葉として、共生社会の一員としての自覚と行動力を培います。

*SDGs への具体的な取組の推進と情報発信*国際理解教育と伝統文化理解教育の推進*「小中一貫教育」学力定着プロジェクトの充実*「別所中 2020 レガシー」の取組 など

5) 家庭・地域に関すること

▲「地域とともにある学校」として、生徒の豊かな成長を、保護者と地域とが知恵を出し合い、地域運営学校（コミュニティ・スクール）として、地域に根付いた誇れる学校を目指します。

*学運協の発展、充実*学校 HP、各種たよりの活用と充実*生涯学習センターとしての役割 など

6) 教職員に関すること

▲教育のプロとしての自覚と自信を高めさせ資質・能力の育成を図ります。

*専門性向上研修や各主任研修、リーダー育成研修等を通じ*OJT、OFFJT で個々のスキルアップに努める など

▲全体の奉仕者・教育公務員としての職責を果たします。

*スクールコンプライアンスの遵守*ガバナンスの強化*服務研修 など